

---

## 岐阜県立岐阜本巣特別支援学校

校 長 織田 龍美

学校住所 岐阜市西秋沢 2-363-1 電話 058-239-9712

---

- 1 会の名称 岐阜本巣特別支援学校学校評議員会
- 2 会の構成 委 員 國枝 春雄 株式会社サン・シング東海 代表取締役社長  
筑間 敦子 地域ボランティア、本巣小学校茶道講師  
早川 忠利 西秋沢地区自治会長  
松尾 綾子 本巣市本巣民生児童委員  
真野 賢児 社会福祉法人あしたの会 どんぐり村福祉工場長  
(委員名は五十音順)  
  
学校側 中村 真由美 P T A会長  
織田 龍美 校長  
熊田 利行 教頭  
高木 裕之 事務長  
新川 教 小学部主事  
坂口 浩之 中学部主事  
関口 聡 高等部主事  
山内 明志 教務主任  
大前 裕子 支援センター長
- 3 会の目的 学校運営等について地域住民や保護者等から幅広く意見を求め、充実した教育活動を展開するとともに、地域に開かれた学校づくりを推進することを目的とする。
- 4 会の開催 平成22年7月16日(金)午後1時～3時 岐阜本巣特別支援学校校長室  
委員5人と学校側8人(坂口委員欠席)が出席
- 5 会の概要
  - (1) 開会挨拶と学校評議員の委嘱
  - (2) 開設3年目、当校の現状と課題説明
  - (3) 授業参観及び施設見学
  - (4) 全体会議

### 高等部作業製品の価格について

- 意見1 提案された製品の価格は、全体として妥当なものである。
- 意見2 バッグについては、手に持つ部分にミシンによる縫いを入れるとさらに丈夫になる。
- 意見3 大きなトートバッグは若い人に人気がある。生地や模様がよい。
- 学校側 安いから購入するというのではなく、良い布地を使用し、手作りで制作者の一生懸命さがあらわれているところを見ていただきたい。
- 意見4 他にないオリジナルの製品であると言える。

## 授業参観してのご意見や感想及び質疑応答

- 意見 1 児童生徒は、どの教室へ行っても、皆挨拶ができています。日常生活で一番大切なことである。
- 意見 2 3年目に入り空き教室がなくなり、生活をしている活気が出てきた。
- 意見 3 教室や廊下の掲示物や施設設備等の充実を感じた。
- 意見 4 高等部の生徒数が多くなっているのを感じた。環境衛生班の活動については、清掃はどこへ行っても必要なことであり、今後の生活に広がっていくことである。
- 学校側 公民館や、電車等の清掃にも取り組んでいる。
- 意見 5 作業班どうしの連携が大切であり、それができている。
- 意見 6 作業班は同じ班を3年間続けるのか。
- 学校側 生徒の希望を大切にしている。
- 学校側 喫茶店の開店については県内初めての試みである。保健所から指導をしていただき、安全衛生に配慮している。
- 意見 7 県内特別支援学校最初の試みということであるが、追随する動きはないか。他の学校の保護者から良い試みだという声を聞く。
- 学校側 実現には難しい問題もあり他校では行われていない。また、当校はセミナーハウスという施設に恵まれている。
- 意見 8 生徒は喫茶店での活動を、緊張しながらも楽しんでいるようだ。生徒の指導はどのようにして当たっているのか。
- 学校側 マニュアルは職員が作成し指導している。喫茶店の開店にあたっては、当校の作業班だけでなく、岐阜工業高等学校や岐阜農林高等学校の支援をいただいた。
- 意見 9 様々な得意分野をもつ生徒がお互いに助け合うことが、総合型特別支援学校の良いところである。
- 意見 10 地域の人が来校することは良いことである。従来は学校祭ぐらいしか機会がなかった。
- 意見 11 学校の広報「ゆめだより」における喫茶店の予定日紹介を、目立つようにすると良い。
- 意見 12 メロンパンやベーグル等の販売要望も地域から出ている。
- 意見 13 良い商品を扱う専門性のある組織に高めていくと良い。
- 意見 14 授業については一部しか見ていないので、簡単に評価するのは難しい。
- 意見 15 職員の人数が多く名前のわからないことがあるが、PTAとしては保護者と職員が協力できるように活動している。
- 意見 16 絵本を読み聞かせるのは特殊な技能である。このような技能は職員が共有できるように広げて欲しい。また、東京の大学に派遣するような研修体制はあるのか。
- 学校側 少人数に限定されているが研修体制はある。
- 学校側 新設したバイオ班は、WSBバイオと連携しワサビの栽培に取り組んでいる。また岐阜農林高等学校へ生徒が研修に行くなど、各方面の支援をいただきながら、技能の向上を図っている。
- 意見 17 進学希望者も来年度はいるようだが、いろいろな進路選択ができるようにしてください。
- 学校側 進路希望の多様化に対応した資料や設備の整備が必要である。また、職員の進路指導力の向上を図りたい。

## 6 会のまとめ

学校評議員の方々には、授業参観を通して本校の児童生徒の実態を見ていただき、その後貴重な御提言をいただいた。今後も御相談させていただきながら、当校の教育が社会で認知され、さらに充実できるよう手助けをしていただければ幸いである。